



中央地区（テラス空間と堤防法面）



中央地区（広場空間）

区間を6地区に分け、沿川住民を対象とした「市民部会」を設け、地区毎に開催した。

デザイン面の工夫

無堤地区に高さが4.5～7.2m、延長が右岸3.4km、左岸4.8kmの長大な堤防を築造するため、「新たな地形を生み出す」という方針を基に、河口部の雄大でおおらかな河岸を形成する丁寧なアースデザインを行った。また、市民や来訪者の新たな集いの場・憩いの場として、ヒューマンスケールに合った居心地の良い空間づくりを念頭に、川湊の歴史や文化を想起できる空間を目指して地域の歴史や風景、川との関わり方等を丁寧に読み解き、デザインに反映していった。

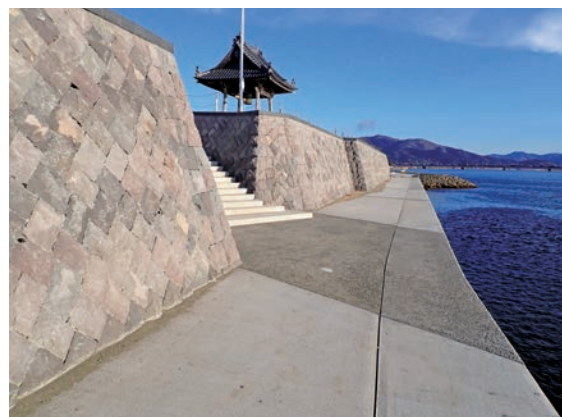
具体には、「堤防空間に人為的で

いびつな折れ曲がり等が生じないよう滑らかな曲線を含んだ形状とする」「従来の風景を保全・活用するために構造上可能な場所は既存の石積み護岸（地場産の井内石を用いた護岸）の保全・復元を行う」「これまで築かれてきた水辺との関係に配慮した水辺へのアクセス、親水の間を設けること」等を立案していった。

また、6地区の拠点を設定し、各地区それぞれの特徴を活かした整備を行った。特に、石巻市の「かわまち交流拠点整備事業」（商業施設、交流センター、交通広場等）の整備が行われる中央地区において

は、交流拠点と堤防を繋ぐ「堤防一体空間」について、堤防事業と交流拠点整備事業を一体的に考え、イベント等に活用されるにぎわいの場づくり、日常の市民の憩いの場となる居心地の良い空間づくりの検討・設計を行った。

松尾芭蕉も訪れた市を代表する



「大島神社」「住吉公園」前の石積み護岸



3次元CGと整備状況の比較



市民部会でのグループ別のワークショップ



堤防法面・テラスを活用したイベント時の賑わい

名所旧跡の「大島神社」と「住吉公園」を堤防上に移設することとなり、それらの歴史的景観を尊重し、堤防部分を石積み護岸として整備した。加えて、江戸時代に治水事業を行った川村孫兵衛重吉翁に対する報恩感謝を行う「川開き祭り」や「流燈」等での活用を考慮した親水空間の整備、水辺での「どんと祭」に配慮したテラス構造等、各々の地区の行祭事等に配慮した空間整備を行った。

施工時には、有識者や「地区別ワーキング」メンバー等で「デザイン監理」を行い、施工者に大変な苦勞を伴いながらも、関係者一体となってより良い空間づくりを目指していった。

地元との合意形成の取り組み

最も身近な利用者になる地域住民の意見を反映したかわまちづくりのために開催した、6地区毎の「市民部会」では意見聴取や現場での説明等を行いながら、合意形成を図っていった。検討の当初にワークショップを行い、堤防・水辺空間整備に対する想いや要望等を聴き出し、それらを踏まえた計画・設計内容を丁寧に説明する等、地区毎に3～4回開催した。

なお、地域住民が整備イメージを視覚的に把握できるよう、模型や3次元CGモデル等を利用した。

空間の利活用に向けて

堤防の一部供用開始後、平成29年11月に石巻市ならびに中央地区の事業者等による「旧北上川堤防利活用協議会」が立ち上がり、新しく創出される水辺空間を活用し、日常的な賑わいと憩いの場として活用していくため「都市・地域再生等利用区域の指定」を目指し、中央地区堤防一体空間でのキッチンカーによる物販等の社会実験、石ノ森萬画館外壁をスクリーンとした屋外上映会等が行われている。また、他の地区においても、沿川の小学校や地

域住民との干渉空間の育成や、それらを活かした環境学習への活用等、更なる空間の利活用に向け検討を進めている。

おわりに

本取り組み内容のうち、中央地区堤防一体空間の整備は、一般社団法人日本公園緑地協会が主催する第36回都市公園等コンクールで『旧北上川河口「震災復興のかわまちづくり』』として、国土交通省都市局長賞を受賞することができた。

今後は、整備された堤防・水辺空間が更なる石巻のにぎわいの場、憩いの場となるよう利活用の推進を図るべく、引き続き協力していきたいと考えている。



堤防整備が概成した現在の旧北上川河口部の状況